

勝間地区生涯学習推進協議会 主催 『勝間ふれあいセンター学級講演会』 開催

講演内容

『夢まちづくり』
～ 文化的な環境づくり～だれでも
参加できます!

いつ 10月23日(火) 午前10時00分～11時30分

どこで 勝間ふれあいセンター 大会議室

講師 なかはら かげ 先生 (地元定住型漫画家 山口きらら博県民参加プロデューサー)

講師紹介

- ・ 昭和30年生まれ
- ・ 昭和52年 小学館ビックコミック賞佳作
- ・ 昭和53年 大阪芸術大学卒
- ・ 昭和55年 集英社ヤングジャンプ賞佳作
- ・ 現在 地元定住型漫画家<資格>博物館(美術館)学芸員資格

《主な作品歴》

- ・ 小学館「とうがらし探偵団」挿絵
- ・ 山口県創作童話絵本シリーズ7冊
- ・ さだまさし「三国志」CDジャケット
- ・ 県内市町村特産品関連デザイン など

《その他の活動》

- ・ 宇部落語長屋スタッフ
- ・ 山口きらら博県民参加プロデューサー
- ・ FM山口「大好きひとのくに山口」パーソナリティ など



主な講演内容

子供にとって、その感性や想像力を養うのに、一番大切なのは、暮らす環境だと思うのです。それはまわりの自然環境であり、家庭の生活環境でもあります。画家を目指し、いま、漫画家として地元で定住して仕事をしているボクも、そんな地元の素晴らしい環境に恵まれて育ったからこそ自分の「夢」を見つけられたし、そして今もそんな暮らしやすい環境を大切にしているからこそ、地元発信の仕事ができるものだと考えています。文化的な環境も大切です。地方においての「町づくり」も、結局のところ「環境づくり」だと思います。住宅・教育・アクセス・商業・工業・などは専門の先生方にお任せして、不満が残るのが、やはり「文化的な環境」の充実です。クリエイティブな仕事をしている立場から、そんな環境も考えてみたいと思っています。特殊な仕事をしている者としてユニークなお話ができればと思います。

※ 上記プロフィールをご覧のように興味ある先生独自のお話をされます。ご近所、お友達などお誘い合わせ上、講演会(勝間ふれあいセンター学級)にご参加ください。(もちろん入場無料!)

◎ 地域の情報・意見・ふれあいゆーるの感想等ありましたらEメールなどでご意見をお聞かせ下さい。!

ふれあい祭り完全予告!

今年も11月11日(日)に、勝間地区校外育成連絡協議会 主催、熊毛町生涯学習のまちづくり勝間地区推進協議会 共催、勝間・呼坂母親クラブ協賛により勝間小学校にて行なわれることが決定しました『第13回 勝間地区 ふれあい祭り』を予告します。

21世紀最初のふれあい祭りとして、今年度は、おなじみイベント・バザーも超パワーアップすること間違いなし!!

ちょっぴり紹介しますと、なんと!祭り最後に、5俵(300和)もの“餅(秭)”をまくことが決定。その他、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで楽しめる、勝間小学校3年生以上の各々児童による【チャレンジコーナー】。勝間大ビンゴ大会には、500個以上の景品が用意される模様。フォークダンスやニュースポーツ紹介など今までに無い、楽しい企画を用意しているみたい。

オープニング(開会行事)のあとすぐ、なんと一般公開で全児童による【音読発表会】これは、児童も先生も大ハッスル。熊毛中学校吹奏楽部による演奏会や「ふるさと文化財」として山口きらら博 出演の諫鼓踊保存会の皆さんによる《諫鼓踊》

地域、家庭、学校が一体となったすばらしい祭りになるよう地域の皆様のご参加・ご来場をお待ちしています。内容・時間など詳細については次号ふれあいゆーる「チラシ」でご案内します。

「ふれあい祭り実行委員会事務局：勝間ふれあいセンター」

諫鼓踊の由来

(ふれあいゆーる かつま No.15 から)

今から四百年前、豊臣秀吉が朝鮮出兵の折、熊毛郡呼坂村勝間(現 熊毛町勝間)の地に一泊することがあったが、このとき「勝間」の地名を吉瑞として熊毛神社に戦勝を祈願したと伝える。



諫鼓踊保存会の皆さん

のち凱旋して東進の擦、再びこの地に立ち寄り、同社に太刀、神馬とともにこの諫鼓踊を奉納したといわれている。

以来毎年10月11日の熊毛神社の秋季例祭に奉納することを例とするが、7年毎の奉納になる。

踊りの構成は、旗持1、手木(拍子木)1、螺貝ふき2、棒使い2、大聖1、小聖1、音戸鶏(胴取り)2、踊り子12、

これに見かじめ役をつとめる僧1人が加わるが、これらはい

ずれも男で、踊り子は7歳から12歳までの長男に限られていた。

僧以外のものは黒紋付きに袴を着用し、武士のいでたちである。音頭鶏は頭に花笠を被り、中央の上部に大型の牡丹をあしらった造花をつけ、その花の中に剥製にした雄の日本鶏の全身をつける。踊り子は同じく花笠を被り背に黄、水色、赤の3種の旗をつけ、腰輪をつける。僧は白の下着に紫の僧衣を着し

頭巾をかぶる。また、僧と大聖は唐団扇を持つ。

踊りは「こうかん」「こうかん裏」「しりふり」「なむあみとう」「なむあみとう裏」「みせがね」「やつぱち」「小みだれ」「大みだれ」の順で演じられ、螺貝2、音頭鶏と踊り子とが太鼓、鉦の音曲に合わせて踊る。

(山口県指定無形民俗文化財)

(この踊りは、伝承によれば文禄の役戦勝の礼のため豊臣秀吉が踊りを奉納したことに始まるとも、陶晴賢が大内義隆を討ち取った時の様子を踊りにしたともされるが、中世の田楽に起源を持つと考えられている。:熊毛町史より)